



教育過度の事は我輩の多年論敵し來りたる所として其大なる是更に申すまでも古く第一人ふる工風を採くるの妙詫あり。近頃これを例すれば、従々物理學の初步に入りて物體運動の法則を學び得たる者ても大工左官は云ふも更に少く、士官人力車夫まで由て以て種々の工風を運らし夫れの便利を收めて生活の道に用ゐる者を得べし。吾等は教育の賜にして其功德は至大至廣、曩よりある可らずと雖も當局者は常に教育の大切なる部分のみを見が、唯一概に教育の全般を顧みぬ事にて更に其點を顧みるの遠慮しと云ふに至りては之と熱心の餘弊として我輩の深く忌む所なり。元来日本は無學國にあらず現時より遡りて千有餘年間を平均するときは、學術は常に昌盛に興きたりと申すも蓋乎、さう程なれば此上著も挙立て難に躊躇屬するが、然るまでも自然の成行に一任しても學問の趨勢は殆んど留めて駐み可らざるもの有様あるが故に、實業教育の方に重きを以て有

○大坂川口の汽船出航時間 大坂川口より出港する汽  
船は衝突の恐れあればとて各船二十分間隔を隔つにあ  
るもあれば頭髪をかけて通りを見廻はしあが儀に  
細創するもあり追々進みて全點 (Perfection mark) に  
至るときはほしに絶命する所原あると知るべし是  
一報の漫畫に過ぎざれども之によりて推察するときは  
彼國にも夙々教育の過度なるが爲め其弊害容易なら  
ざるより讀者は之を嫌らんとして屢々論説を試みしか  
ども何分にも其効職を奏し難ければ嘗て意盡きざる  
よりして止むを得ず斯る漫畫の趣向に出でしものあら  
ん之を以て我國の實際に照合するときは實に思半ばよ  
過ぐるものわざべし左れば教育は前陣の如く極めて大  
切あるに相違あけれども其度に過ぐるの弊は殆んど云  
ふ可さざるものあるが故に教育の局面に當る人々は經  
済上に身體上に心を用ひて其宜しきと從くべきは勿論  
世の父兄も亦能く此邊に注意して其子弟の後年を顧ら  
ざる様深く猛省あらんと我輩の断る所あり

ヨリノ外都日正午ノ時、人間の死入る事無  
シテナス但得此御内閣ノ御前ニテ御内閣  
候也。一送行次  
日本本國諸城六箇地内

卷之三

十付真

甲文原

年譜

卷之三

卷之三

卷之三

卷之三

下山

卷之三

三

卷之三

卷之三

三

新民報

卷之三

• 100 •

卷之三

卷之三

卷之三

卷之三